

これにより、実際に働いた建設現場の印象（3.2-1）に対して、「就業時に重要なこと」の要素が加わり、全体の平均に対する偏差が顕著なものとなる。

この場合に場合でも、「一時的なものである」とした人において多少順番の入れ替わりはあるものの、「休暇のとりやすさ」、「やりがいのある仕事」、「仕事の内容」、「社会的イメージの良さ」等の項目で悪いスコアに偏っている。

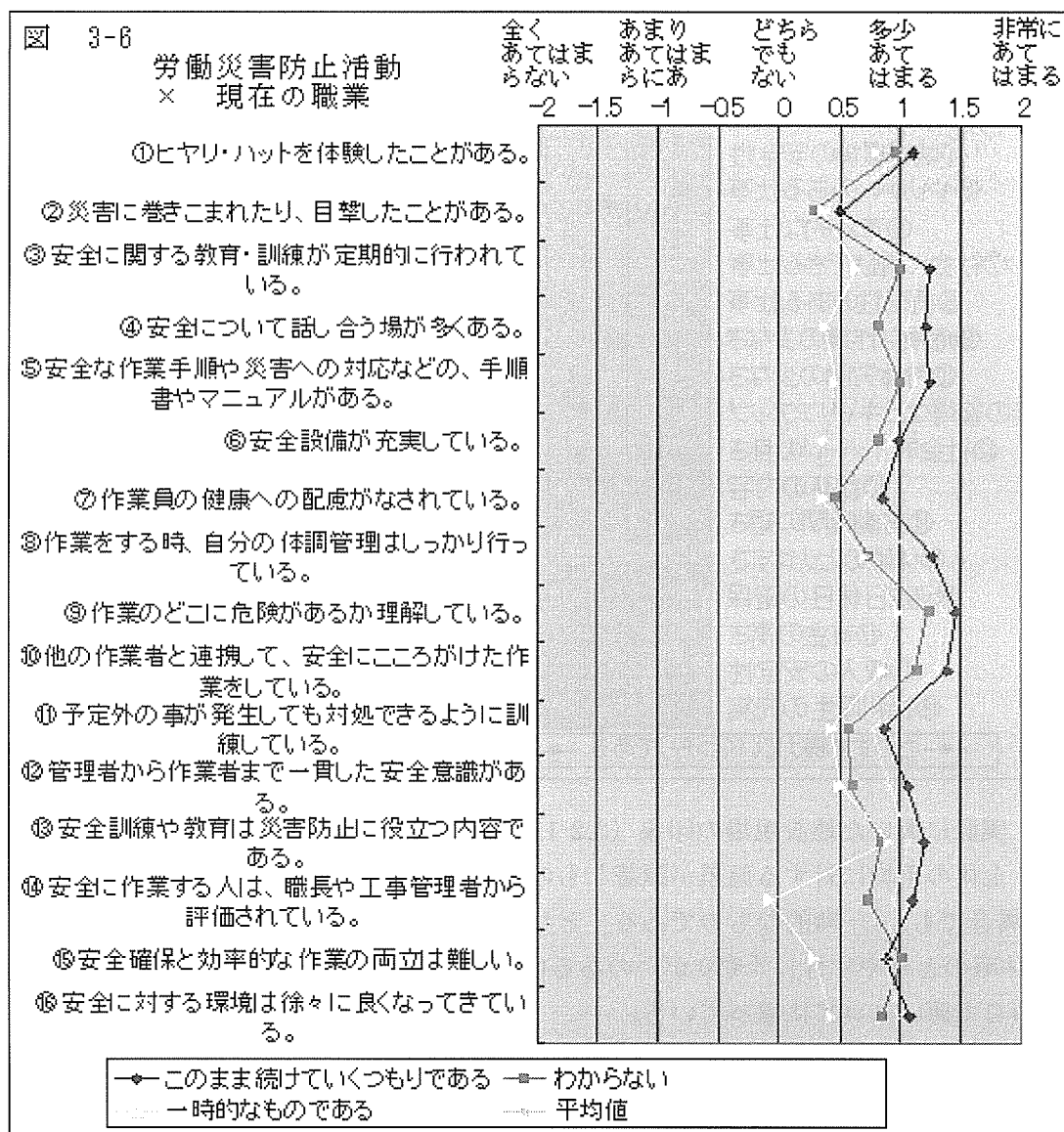
こうしたことから、建設業の厳しい労働条件の下で、やりがい等の仕事への意気込みの喪失や、作業内容と労働条件の釣り合いがさらに悪化することで離職につながるといふ現状がみえる。離職の引き金となりうる要因を表3-1にまとめる。

表 3-1 離職の引き金となる要因

影響度（大）	影響度（中）	影響度（小）
職場環境の安全性	職場の人間関係の良さ	職場の雰囲気の良さ
仕事のやりがい	職場環境の快適性	危険な作業の少なさ
社会的イメージの良さ	革新的な仕事	肉体労働の少なさ
仕事内容	社会に貢献できる仕事	労働時間の短さ
休暇はとりやすい	将来性のある仕事	週2日休日は確保できる
	キャリアアップ	
	賃金の高さ	
	収入の安定性	
	福利厚生充実	

3) 労働災害防止活動

労働災害防止活動についても同様に、全体の平均値とそれぞれの回答における平均値を出すすと図 3-6 のようになる。



又これについても同様に全体の平均値に対する、それぞれの回答における偏差を見てみると図 3-7 のようになる。

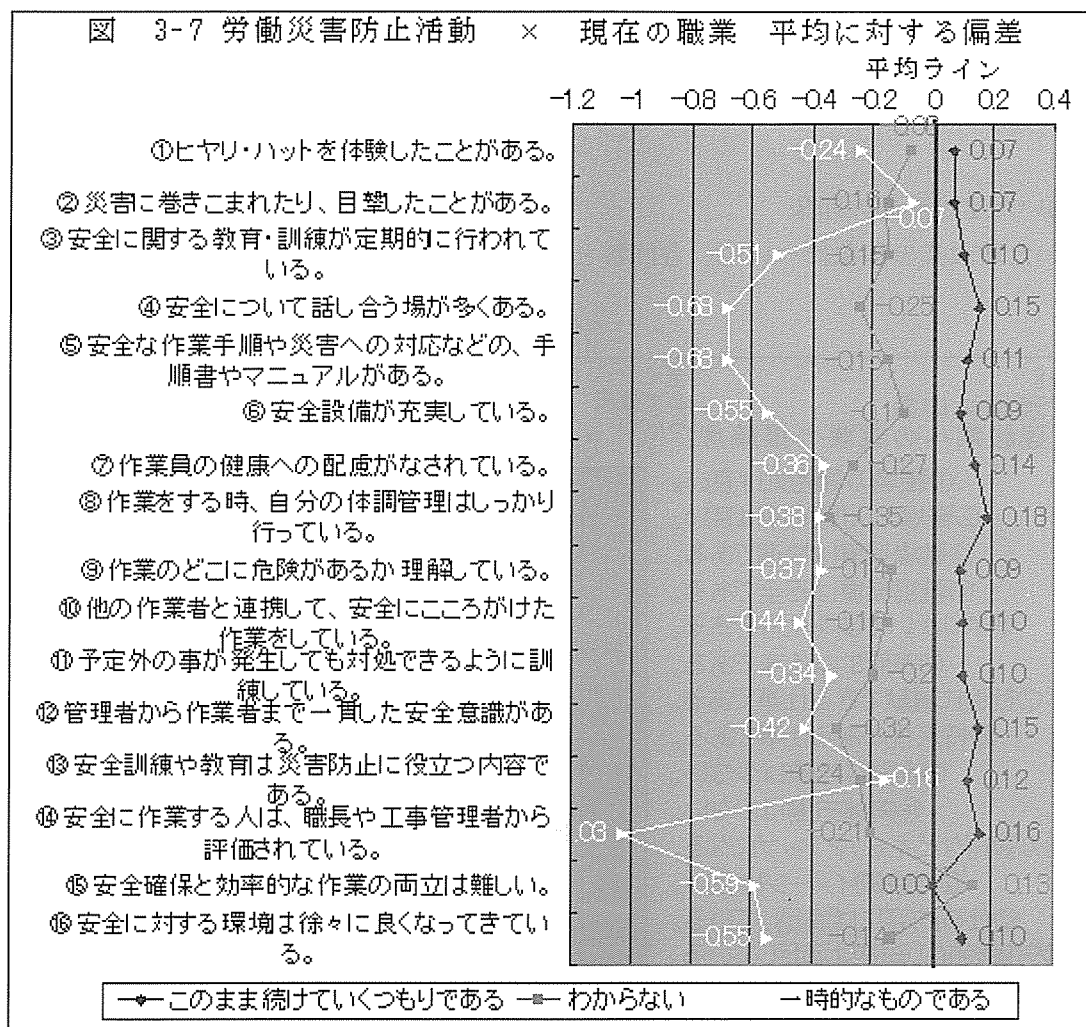
労働災害防止活動に見ていくと、「このまま続けていくつもりである」、「わからない」、「一時的なものである」と、転職の意思が大きいほど、平均値に対する偏差も悪いものとなっている。

特に「一時的なものである」とした人の「安全に作業する人は職長や工事管理者から評価されている」という項目において極端に悪いものとなっており、こうした自分の行った労働災害防止活動が認められないことに対するモラルの低下ということが言えるだろう。

又、労働災害防止活動の実施状況は先に述べた、作業の安全性に関わる問題であり、こうした活動におけるモラルの低下が作業の安全性における労働環境の悪化につながり、又、

やりがい等の仕事に対する意気込みの低下というものを引き起こしかねない。

よってこうした労働災害防止活動におけるモラルの低下は、建設業における離職問題を語る上で無視できない問題であるといえるだろう。



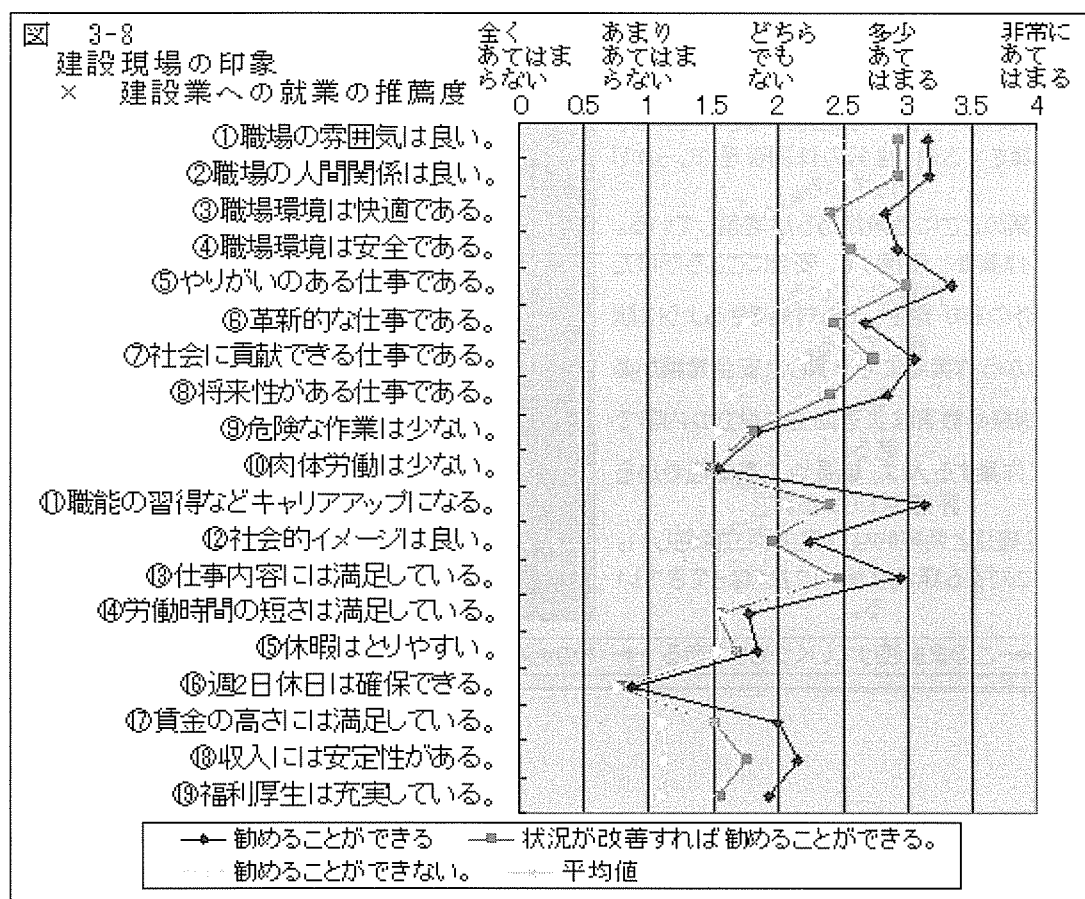
2.3.3 建設業への就業の推薦度低下の要因についての分析

建設業の活性化を目指すには多くの優秀な人材の確保が必須である。とりわけ建設業での就業時のきっかけをみると、友人・知人の紹介が多い。このため建設業からの推薦は重要な要素であり、これにより就業の推薦度の高いもしくは低い人が建設業に対してどのように感じているか知ることが重要である。

ここでは 2.2.3-4)における「建設業への就業の推薦度」に対する回答ごとの平均値を求め、それを比較していく。

1) 実際に働いた建設現場の印象

実際に働いた建設業の印象について、各回答と全体における平均値を求めると図 3-8 のようになる。



このとき各回答全体の平均値に対する偏差をみていくと図 3-9 のようになる。

各回答の偏差は「状況が変われば勧めることができる」という中立的なグループにおいてはあまりなく、ほぼ平均値と同じような値となった。

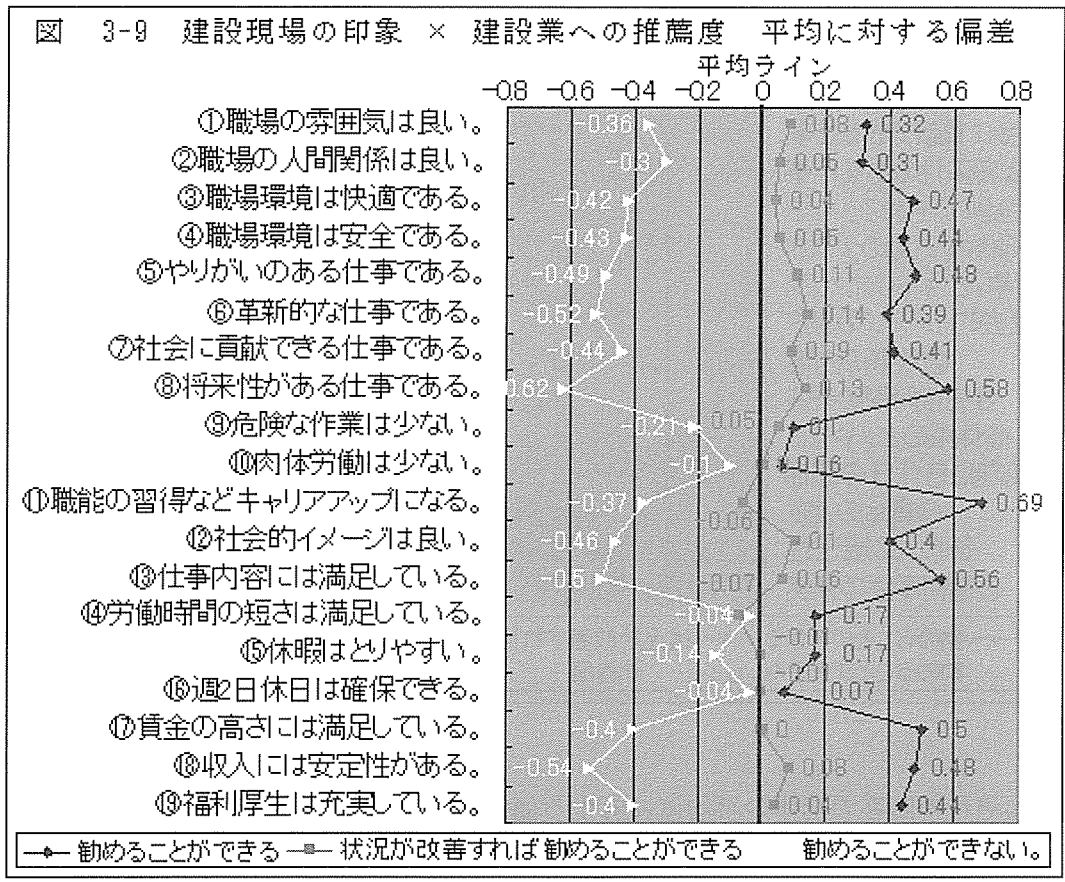
「勧めることができる」とした人では、ほとんどの項目において平均値を大きく上回っている。これにより、賃金等における労働条件及び職場の人間関係等の労働環境、又、やりがい等の仕事に対する意気込みにおいて良い印象を持った時に、建設業への推薦度が高くなるということがわかる。

これに対して「勧めることができない」とした人においては「勧めることができない」と

した人の平均値に対して、平均ラインをはさんでほぼ対象になっている。よって、推薦度の低下は労働条件、労働環境、仕事への意気込みといったものが低くなることにより起こるといことがうかがえる。

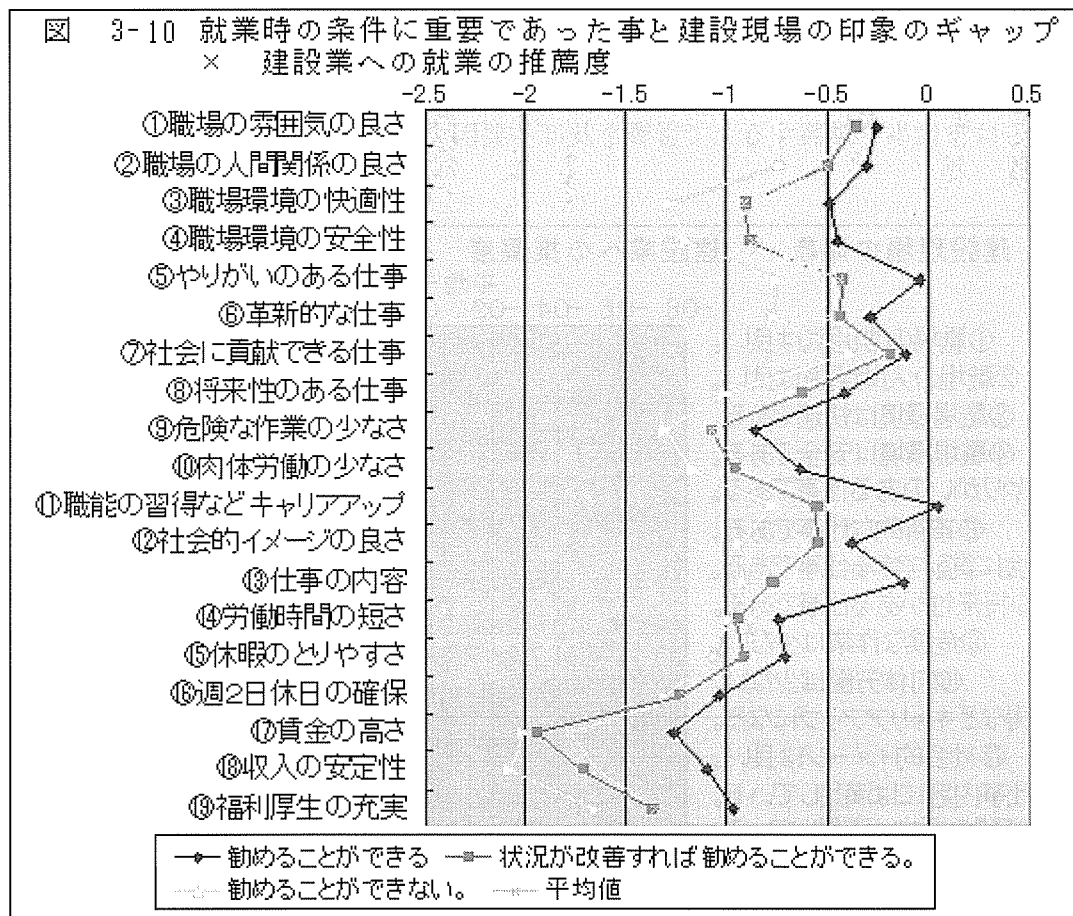
こうした中、「危険な作業は少ない」、「肉体労働は少ない」、「労働時間の短さには満足している」、「休暇はとりやすい」、「週2日休日は確保できる」という項目においては、推薦度の高さに関わらず、どの回答のグループにおいてもあまり変化はみられない。

これにより、労働時間に対する労働条件及び危険な作業や肉体労働の少なさといった仕事におけるきつさは、仕事を推薦する上で影響を及ぼす要因ではないといことが出来るだろう。



2) 「就業時重要であった事」と「実際に働いた印象」のギャップ

「就業時重要であった事」と「実際に働いた印象」のギャップについて全体の平均値及びそれぞれの回答の平均値についてみると図 3-10 のようになる。



このときそれぞれの回答の全体の平均値に対する偏差をみると図 3-11 のようになる。

これにより、先に示した建設業の印象 (2.3.3-1) における特徴が顕著になる。

建設業の印象のときと同じく、影響の少ないものとしては「危険な作業の少なさ」、「肉体的労働の少なさ」、「労働時間の短さ」、「休暇のとりやすさ」、「週2日休日の確保」の5項目において、その偏差は小さくなった。こうした仕事のきつさに関係するような労働条件による推薦度への影響が小さいことがうかがわれる。

これに対して、「収入の安定性」、「職能の習得などキャリアアップ」、「職場の快適性」、「職場の安全性」といった項目において、偏差の開きが大きくなった。

こうした結果を踏まえ、建設業への就業の推薦度低下の要因となりうるものについて表3-2にまとめる。

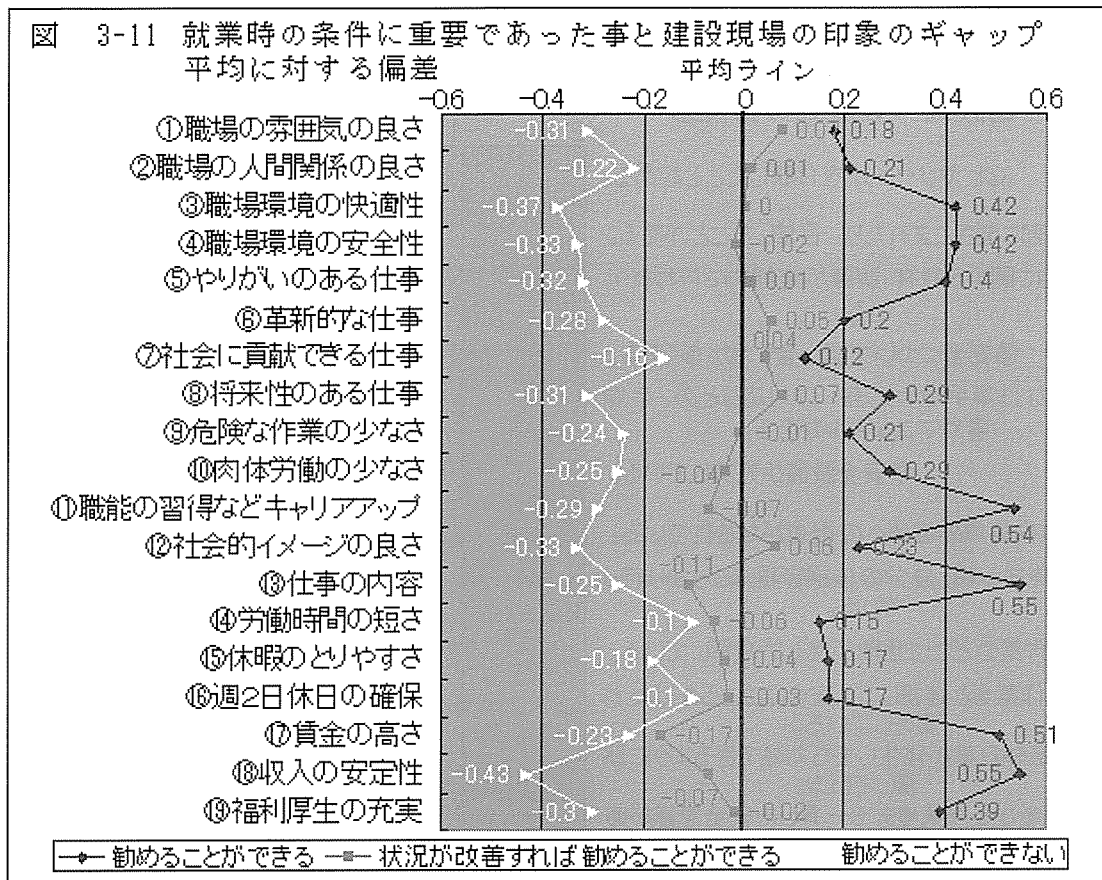
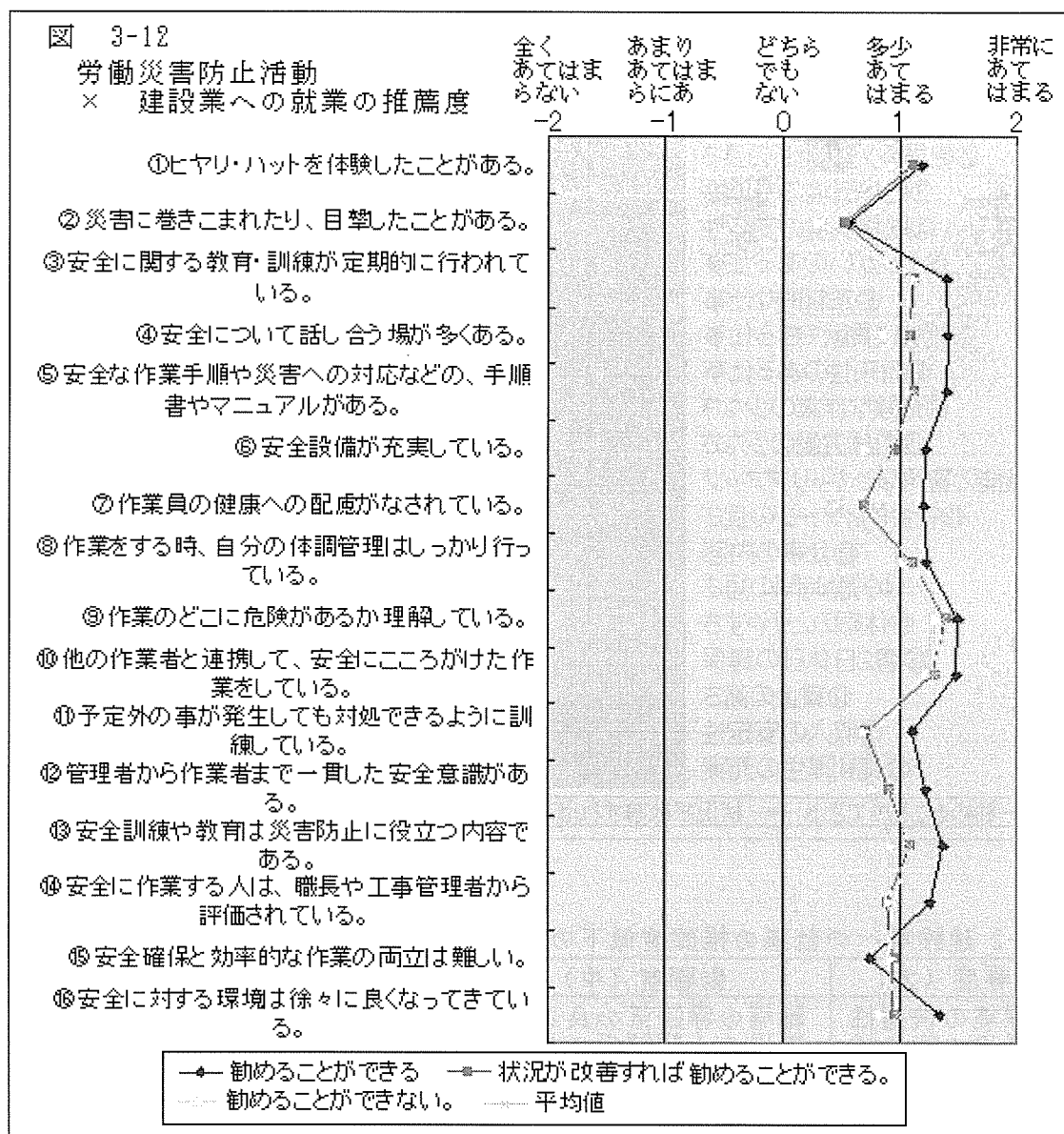


表 3-2 建設業への就業の推薦度低下のとなる要因

影響度 (大)	影響度 (中)	影響度 (小)
職場環境の快適性	職場の雰囲気の良さ	危険な作業の少なさ
職場環境の安全性	職場の人間関係の良さ	肉体労働の少なさ
仕事のやりがい	革新的な仕事	労働時間の短さ
将来性のある仕事	社会に貢献できる仕事	休暇のとりやすさ
キャリアアップ	社会的イメージの良さ	週2日休日の確保
仕事内容	福利厚生充実	
賃金の高さ		
収入の安定性		

3) 労働災害防止活動

労働災害防止活動についても同様に、全体の平均値とそれぞれの回答における平均値を示すと図 3-12 のようになる。



又、これについても同様に全体の平均値に対する、それぞれの回答における偏差を見みると図 3-13 のようになる。

この結果を見ると「状況が改善すれば勧めることができる」としたグループにおける偏差はほとんどない。

又、「勧めることができる」としたグループは全般的にスコアが高く、特に「作業員の健康への配慮がなされている」、「安全に対する環境は徐々に良くなってきている」という項目等において良いほうに大きく偏っている。

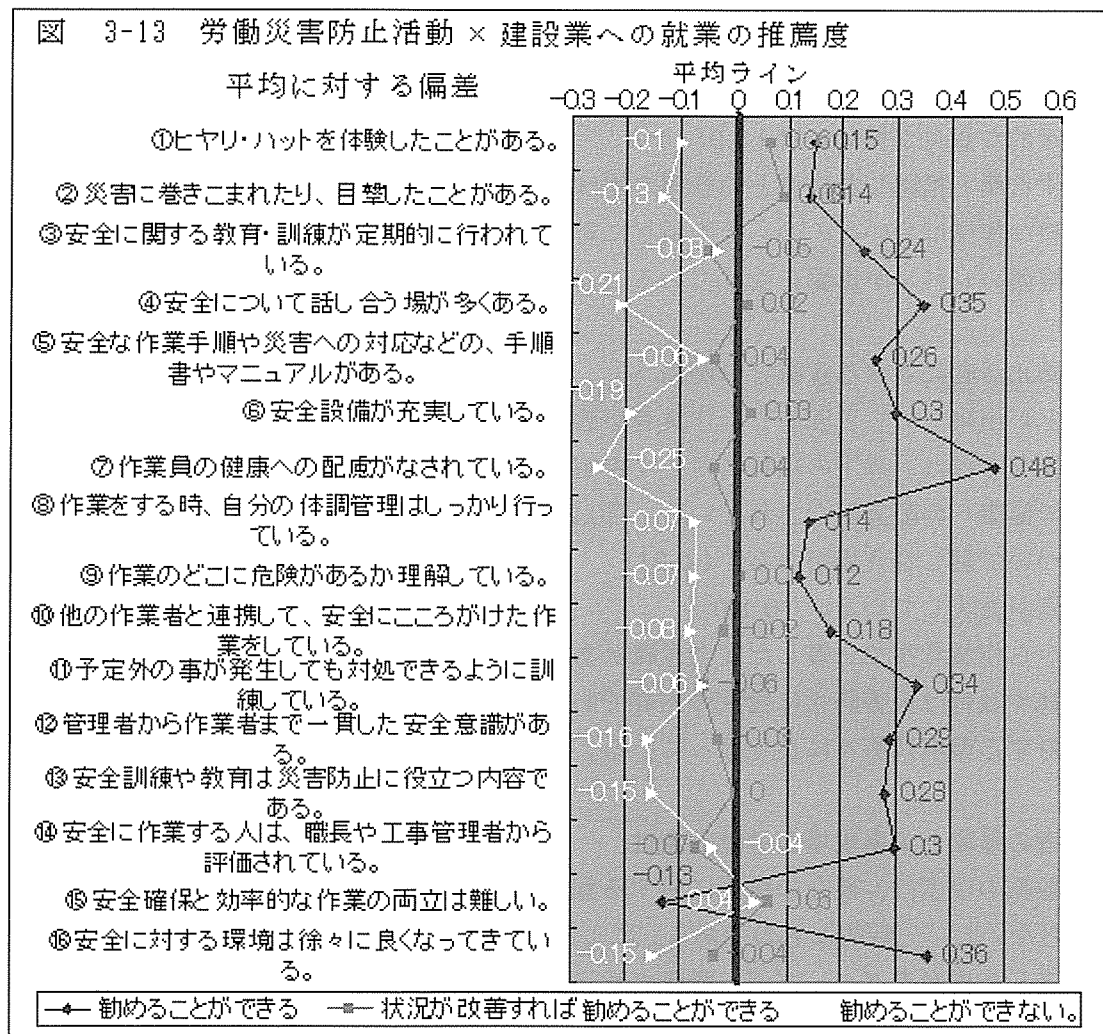
これに対して「勧めることができない」としたグループにおいては平均値と比べ若干悪い

ほうに偏っていることがわかる。

これにより、建設業への就業の推薦度低下においては労働災害防止活動のモラルの影響は少ないということがいえるだろう。

又、各回答の間の格差の大きいものとして「安全について話し合う場がある」、「安全設備が充実している」、「作業員の健康への配慮がなされている」、「安全に対する環境は徐々に良くなってきている」等が挙げられる。こうした項目における特徴として労働災害防止活動の体制に関するものであるということがいえる。

よって建設業への就業の推薦度を高めるため、労働災害防止活動の観点からは、しっかりとした体制を築き、安全に作業する環境を整えることだといえるだろう。



2.4 アンケート結果の考察

2.4.1 建築業への就業についての推薦度と工事現場の労働安全性

工事現場の労働安全性が、建設業への就業についての推薦度にどのように影響しているかを、以下の作業者の意識との関係について調べた。

①現場の印象との関係

②労働災害防止活動に対する意識との関係

推薦度のレベルを、「就業を勧めることが出来る」、「状況が改善すれば進めることが出来る」、「薦めることが出来ない」に分けて、意識の各評価点の平均値を求めた。

<現場の印象との関係>

「勧めることが出来ない」と回答した作業者が感じる現場の印象が他の回答者と異なる点は、賃金や仕事の将来性などに関する否定的な意見も多いが、「職場環境が安全である」との問いに対する否定的な意見が強い。(図.3.9) 一方、「危険な作業が少ない」との問いに対する意識は、推薦する側と推薦しない側との意識の差はあまり見られない。このことは、現場においては、危険な作業は多いものの、その現状に対して安全な環境と意識しているかいないかによって、推薦のレベルが影響を受けていることが認められる。

<労働災害防止活動に対する意識との関係>

「勧めることが出来ない」と回答した作業者が感じる労働災害防止活動に対する意識が、他の回答者と異なる点は、以下の項目に対して否定的な意見が特に高いことである。

①作業者の健康への配慮がなされている。(-0.25)

②安全について話し合う場がある。(-0.21)

③安全設備が充実している。(-0.19)

④管理者から作業員まで一貫した安全意識がある。(-0.16)

⑤安全訓練や教育は災害防止に役立つ内容である。(-0.15)

⑥安全に対する環境は徐々に良くなっている。(-0.15)

2.4.2 作業員の離職と工事現場の労働安全性

作業員の離職の程度は、現在の職業に対する意識である「このまま続けていくつもりである」、「わからない」、「一時的なものである」によって、グループ分けした。「一時的なものである」と回答した作業員グループが、離職の意識が高いグループとした。そして、それぞれの意識の各評価点の平均値を求めた。

<現場の印象との関係>

「一時的なものである」と回答した作業員が感じる現場の印象が他の回答者と異なる点は、休暇のとりやすさ、仕事のやりがい等に対する否定度が高いが、作業環境の安全性に対する否定度も高い。(図.3.5) 推薦度と同様に、「危険な作業が少ない」との問いに対する意識は、他のグループとそれほど違いはなく、離職についても危険な作業が多いことは認めつつ現場

において以下に安全対策がなされているか否かの意識が、離職に繋がっている。

<労働災害防止活動に対する意識との関係>

「一時的なものである」と回答した作業者が感じる労働災害防止活動に対する意識が、他の回答者と異なる点は、以下の項目に対して否定的な意見が特に高いことである。

- ①安全に作業をする人は、職長や工事管理者から評価されている。(-1.08)
- ②安全について話し合う場がある。(0.66)
- ③安全な作業手順や災害への対応などの、手順書やマニュアルがある。(0.66)
- ④安全確保と効率的な作業の両立は難しい。(-0.59)
- ⑤安全設備が充実している。(-0.55)
- ⑥安全に対する環境は徐々に良くなっている。(-0.55)
- ⑦安全に関する教育・訓練が定期的に行なわれている。(-0.51)

参考文献

- 1) 「建設業安全衛生早わかり平成 15 年度版」 建設業労働災害防止協会 / H15. 3. 25 / 博文堂
- 2) 建設業労働災害防止協会 <http://www.kensaibou.or.jp/index.html>
- 3) 中央労働災害防止センター 労働災害発生速報
<http://www.jaish.gr.jp/information/sokuhou.html>
- 4) 中央労働災害防止センター 労働災害統計
<http://www.jaish.gr.jp/user/anken/tok/anst00.htm>
- 5) 日本建設業団体連合会 建設業ハンドブック 2006
http://www.nikkenren.com/handbook/book_2006.html
- 6) 厚生労働省 <http://www.mhlw.go.jp/>
- 7) 厚生労働省 平成 16 年における死亡災害・重大災害発生状況の概要
<http://www.mhlw.go.jp/houdou/2005/05/h0502-1a.html>
- 8) 厚生労働省 厚生労働省統計表データベースシステム
<http://www.dbtk.mhlw.go.jp/toukei/kouhyo/indexk-roudou.html>
- 9) 国土交通省 基礎統計資料 <http://www.mlit.go.jp/toukeijouhou/chojou/index2.html>
- 10) 財務省 財政金融統計月報 <http://www.mof.go.jp/kankou/hyou07.htm>
- 11) 「建設業安全衛生早わかり 平成 15 年度版」 建設業労働災害防止協会 / H15. 3. 25 / 博文堂
- 12) 「建設業における危険有害特定標準モデル」 建設業労働災害防止協会 / H14. 10. 1 / 中和印刷株式会社
- 13) 「建設業労働安全衛生マネジメントシステム (COHSMS) 評価サービス事業についてのお知らせ」 建設業労働災害防止協会
- 14) 「建設工事の安全—建設技術者テキスト」 建設業労働災害防止協会
- 15) 「建設技術シリーズ ビルはこうしてできる 仮設工事編」 日刊工業新聞社 / 藤吉敏生 / H6. 10. 31
- 16) 「建設業労働災害防止対策等総合実態調査報告書を読む (下)」 労働安全衛生広報 32 (758) / 2000. 11. 1 / 労働調査会
- 17) 「建設業における労働安全とヒューマンファクター」 北條 哲男(ものづくり大学)、前川 行正(中央工学校) / 2003
- 18) 「建設業における不安全行動の発現とその防止対策に関する職位による意識の相違」 庄司卓郎、江川義郎、高木元也 / 産業安全研究所特別研究報告 (32) / 2005
- 19) 「組織面・意識面から見た安全文化構築に関する調査研究 その 2 組織要因と安全度に関する異なる業種間での比較検討 (本社レベル)」 廣瀬文子、小島三弘、長谷川尚子、高野研一、庄司卓郎、鈴木芳美
- 20) 電力中央研究所報告研究報告 S99006 / 2000. 8
- 21) 建設業労働災害防止協会 <http://www.kensaibou.or.jp/index.html>
- 22) 「建設現場労働者の就労状況等に関するアンケート調査結果 (概要)」 建設労働・資材月報 28(11), 25~32 / 2002. 11 (ISSN 02851237) 建設労働・資材対策研究会 編 / 大成

出版社

- 23) 「高等学校新規卒業者の建設業への就職状況」 建設労働・資材月報 28(8), 14～20, /
2002. 8 (ISSN 02851237) 建設労働・資材対策研究会 編 / 大成出版社
- 24) 第 1 3 回首都圏工業高校建設系 2 年生アンケート (東京土建、2005)
<http://www.tokyo-doken.or.jp/news2005/1776/n1776.htm#1776-12>
- 25) 第 1 2 回首都圏工業高校建設系 2 年生アンケート (東京土建、2004)
<http://www.tokyo-doken.or.jp/news/n1742.htm#1742-07>
- 26) 第 1 1 回首都圏工業高校建設系 2 年生アンケート (東京土建、2003)
<http://www.tokyo-doken.or.jp/news/030420-anketo.htm>
- 27) 厚生労働省 学校基本調査 http://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/001/index01.htm

資料： アンケート用紙

建設産業における安全と就業に関するアンケート調査

学校法人早稲田大学

独立行政法人労働安全衛生総合研究所

(本調査は、厚生労働科学研究費補助金の研究支援を受けて、実施しているものです。)

本調査では、日本の社会資本の形成に多大な貢献を為している建設工事に従事する作業者の方々の安全と就業に関する意識を調査し、その現状を明らかにすることを目的としています。

アンケートの回答要領

- (1) アンケートは無記名です。(氏名、所属等の記載は必要ありません。)
- (2) アンケートへの記載内容は、アンケート調査報告書として作成する目的以外には使用しません。(報告書(来年3月完成予定)をご希望の方は、別紙はがきに送付先をご記入の上、ご投函下さい。)
- (3) アンケートの記入は、必要な箇所に○を付けてください。また、最後には、自由記入欄があります。
- (4) アンケートに対するお問い合わせ先：

早稲田大学理工学部建築学科 嘉納研究室 教授 嘉納成男

Email: △△△△△△@△△△

〒〇〇〇-〇〇〇〇 ××××××××××××××

電話：〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇 FAX：〇〇-〇〇〇〇-〇〇〇〇

1. あなたのプロフィールについておうかがいします。あてはまるものに○をつけてください。

1.1 年齢

- () ①19歳以下 () ②20歳～24歳 () ③25歳～29歳
() ④30歳～34歳 () ⑤35歳～39歳 () ⑥40歳～44歳
() ⑦45歳～49歳 () ⑧50歳～54歳 () ⑨55歳～59歳
() ⑩60歳～64歳 () ⑪65歳～69歳 () ⑫70歳以上

1.2 性別

- () ①男 () ②女

1.3 現在の職種（主要なもの1つに○をつけて下さい。）

- () ①土工 () ②大工 () ③電気工 () ④配管工
() ⑤機械運転工 () ⑥とび工 () ⑦石工 () ⑧左官工
() ⑨塗装工 () ⑩板金工 () ⑪溶接工 () ⑫鉄筋工
() ⑬鉄骨工 () ⑭タイル・ブロック工 () ⑮型枠工
() ⑯建具工 () ⑰内装工 () ⑱防水工 () ⑲造園工
() ⑳その他 (_____)

1.4 現在の職種に就く前に、他の仕事（アルバイトは含みません）をしていましたか。

- () ①していた () ②していない

上記で、「していた」に○をつけられた方は、下記の質問に教えてください。

これまでどのような仕事をしてきましたか。（複数回答可）

- () ①建設業の他職種 () ②農業 () ③林業 () ④漁業
() ⑤鉱業 () ⑥製造業 () ⑦電気・ガス・水道業
() ⑧情報通信業 () ⑨運輸業 () ⑩卸売・小売業
() ⑪金融・保険業 () ⑫不動産業 () ⑬飲食店
() ⑭医療・福祉 () ⑮教育 () ⑯サービス業 () ⑰公務
() ⑱その他

1.5 建設業にたずさわっている年数

- () ①0年～5年未満 () ②5年～10年未満 () ③10年～15年未満
() ④15年～20年未満 () ⑤20年～25年未満 () ⑥25年～30年未満
() ⑦30年以上

2. 就業についておうかがいします。

2.1 あなたが現在の職業に就かれる時に重要と考えた事はなんですか。あてはまるものの番号1つに○をつけて下さい。

	非常に 重要で ある	多少 重要で ある	どちら でも ない	あまり 重要で ない	全く 重要で ない	わから ない					
記入例)											
革新的な仕事	①	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
①職場の雰囲気の良さ	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
②職場の人間関係の良さ	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
③職場環境の快適性	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
④職場環境の安全性	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑤やりがいある仕事	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑥革新的な仕事	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑦社会に貢献できる仕事	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑧将来性がある仕事	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑨危険な作業の少なさ	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑩肉体労働の少なさ	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑪職能の習得などキャリアアップ	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑫社会的イメージの良さ	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑬仕事の内容	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑭労働時間の短さ	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑮休暇のとりやすさ	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑯週2日休日の確保	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑰賃金の高さ	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑱収入の安定性	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6
⑲福利厚生充実	1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6

2.2 あなたが現在の職業を選んだきっかけについておうかがいします。あてはまるものに○をつけて下さい。(複数回答可)

- () ①公共職業安定所 () ②民間職業紹介所
 () ③友人・知人 () ④親族 () ⑤教師・教官
 () ⑥インターネット () ⑦新聞折り込み () ⑧就職情報誌
 () ⑨企業説明会 () ⑩就職イベント () ⑪その他

2.3 現在の職業についておうかがいします。あてはまるもの1つに○をつけて下さい。

- () ①このまま続けていくつもりである
- () ②一時的なものである
- () ③わからない

上記で、「一時的なものである」に○をつけられた方は、下記の質問に答えてください。

これからの転職先として、どのような業種を考えていますか。あてはまるものに○をつけて下さい。(複数回答可)

- () ①建設業の他職種 () ②農業 () ③林業 () ④漁業
- () ⑤鉱業
- () ⑥製造業 () ⑦電気・ガス・水道業
- () ⑧情報通信業 () ⑨運輸業 () ⑩卸売・小売業
- () ⑪金融・保険業 () ⑫不動産業 () ⑬飲食店
- () ⑭医療・福祉 () ⑮教育 () ⑯サービス業 () ⑰公務
- () ⑱その他 () ⑲ わからない

2.4 建設業への就業を、ご子息や知人の方に勧めますか。あてはまるもの1つに○をつけて下さい。

- () ①勧めることができる。
- () ②現在の状況では勧められないが、状況が改善すれば勧めることができる。
- () ③勧めることができない。

3. 建設業についておうかがいします。

3.1 実際に働いた建設現場の印象についておうかがいします。あてはまるものの番号1つに○をつけて下さい。

	非常に あて はまる	1	—	多少 あて はまる	2	—	どちら でも ない	3	—	あまり あてはま らない	4	—	全く あてはま らない	5	6	わから ない
①職場の雰囲気は良い。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
②職場の人間関係は良い。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
③職場環境は快適である。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
④職場環境は安全である。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑤やりがいある仕事である。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑥革新的な仕事である。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑦社会に貢献できる仕事である。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑧将来性がある仕事である。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑨危険な作業は少ない。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑩肉体労働は少ない。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑪職能の習得などキャリアアップ になる。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑫社会的イメージは良い。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑬仕事内容には満足している。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑭労働時間の短さは満足している。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑮休暇はとりやすい。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑯週2日休日は確保できる。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑰賃金の高さには満足している。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑱収入には安定性がある。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						
⑲福利厚生は充実している。	1	—	2	—	3	—	4	—	5	6						

3.2 実際に働いた建設現場の印象は、働く前と比べてどのように感じますか。あてはまるものの1つに○をつけて下さい。

- () ① 印象は良くなった。
- () ② 変わらない。
- () ③ 印象は悪くなった。

4. 建設現場の安全活動についておうかがいします。

4.1 建設現場の労働災害について、どのように感じているかおうかがいします。あてはまるものの番号1つに○をつけて下さい。

	非常に あて はまる	多少 あて はまる	どちら でも ない	あまり あてはま らない	全く あてはま らない	わから ない
①ヒヤリ・ハットを体験したことがある。	1	2	3	4	5	6
②災害に巻きこまれたり、目撃したことがある。	1	2	3	4	5	6
③安全に関する教育・訓練が定期的に行われている。	1	2	3	4	5	6
④安全について話し合う場が多くある。	1	2	3	4	5	6
⑤安全な作業手順や災害への対応などの、手順書やマニュアルがある。	1	2	3	4	5	6
⑥安全設備が充実している。	1	2	3	4	5	6
⑦作業員の健康への配慮がなされている。	1	2	3	4	5	6
⑧作業をする時、自分の体調管理はしっかり行っている。	1	2	3	4	5	6
⑨作業のどこに危険があるか理解している。	1	2	3	4	5	6
⑩他の作業者と連携して、安全にこころがけた作業をしている。	1	2	3	4	5	6
⑪予定外の事が発生しても対処できるように訓練している。	1	2	3	4	5	6
⑫管理者から作業員まで一貫した安全意識がある。	1	2	3	4	5	6
⑬安全訓練や教育は災害防止に役立つ内容である。	1	2	3	4	5	6
⑭安全に作業する人は、職長や工事管理者から評価されている。	1	2	3	4	5	6
⑮安全確保と効率的な作業の両立は難しい。	1	2	3	4	5	6
⑯安全に対する環境は徐々に良くなってきている。	1	2	3	4	5	6

4.2 製造業など他のものづくりの現場と比べたときの、建設現場の印象についておうかがいします。あてはまるものの番号1つに○をつけてください。

	非常に 多いと 思う	1	—	多少 多いと 思う	2	—	変わら ない	3	—	多少 少ないと 思う	4	—	非常に 少ないと 思う	5	—	わから ない	6
①災害発生件数		1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6					
②危険性の高い災害		1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6					
③死亡をともなう災害		1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6					
④業務疾病・職業病		1	—	2	—	3	—	4	—	5	—	6					

5. 現在の建設現場における安全や就業について何かお気づきのことがありましたら、下の自由記述欄にお書き下さい。

以上です。お忙しい中、貴重なご意見ならびにご協力ありがとうございました。